

今回の Sakura Time 通信はなんと！ 「未知なる問い」を立てるコツ的なものあります？ 特集です！

さあ夏休み！1年生ははじめての個人での探究活動、2年生はさらに探究を深めていく活動を行いますよ～！
ところで探究活動ってどんなことをやるのか、もう一度確認しましょう。

探究活動って？

①課題・問いの設定

実社会や実生活にあるさまざまな問題に向き合っ、解決のするためにはどうすればいいかの「課題」「問い」を決める。



②仮説を立てる

「問い」の答えを自分なりに考える。これが「仮説」です。



③調査・実験を行う

「仮説」を検証するために、情報を得る。情報を分析し、「仮説」に対する評価を行う。新たな「問い」が生まれることも。



④まとめ、共有する

考察をまとめたら、発表会。他者と共有することで、はじめてあなたの探究は社会の役に立つのです。

つまり、探究活動は社会をより良くするための大切なことなんです。大人になれば、これが「仕事」になるわけで、これからはずっと探究は続いていくんです。Sakura Time はその練習の時間であり、社会に出たときに自分はどう「仕事」として社会に貢献するのか、将来を考える時間でもあるんですね。

特集1 未知と無知の違いを意識しよう

要するに！まだ**解決していないこと**を「問い」にしてほしいのです。

「未知」と「無知」を意識して、「未知」に対する問いを考えてほしいのです。

「未知」：まだだれも答えを知らない、解決していない ← 答えが出たら、社会がより豊かになる！

「無知」：自分が知らないだけで、答えはもうある ← 自分が調べたら終わり。

では、問題です。次の問いは「未知」「無知」のどっち？

「日本各地で起こる災害で、増加傾向にあるものはなにか？また具体的な対策とその仕組みは？」

いかがですか？これは「無知」です。新聞や本で調べたり、災害に関わる人に聞くと、すぐ分かります。

ではこれは？

「弘前市は昨年の夏、線状降水帯の影響で岩木川氾濫のおそれがあった。弘前市内の岩木川の堤防にどのような工夫をすれば、氾濫の危険性を下げることができるか？」

ありましたよね……。治水対策はどこでも行われていますが、想定外のことが起きると弘前も危ないんだ、ということを感じましたよね。ということで、今より安全な治水対策は「未知」です。

「問い」を考えるときに、常に「未知」かどうかを意識してみましょう。友達に「これって未知かな？」って聞いてみるのもいいですね。



特集2 「問い」を立てるヒントはこれ！

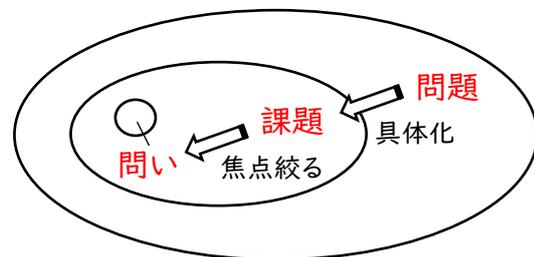
とはいえ、「問い」って結構決めるの難しいですね。「あれはどうなっているんだ？」って自分の中でテーマにしても、ネットで調べたら、答え出てきちゃう。ああ、未知ではないな・・・、となったり(泣)。そんなあなたに「問い」を立てるまでのプロセスのヒントを伝えます！

①探究活動において「問題」「課題」「問い」を、それぞれ以下のように区別して考えてみて！

「問題」：ある状況における、問題意識やその背景

「課題」：疑問だ、解決すべきだ、知りたいと思う「問題」の具体的事柄

「問い」：「課題」の焦点をもっと絞ったもの



②右の例のように、「問題」→「課題」→「問い」の順にじっくり考えよう。自分の興味関心、好きな教科、将来の夢をちょっと意識すると、なおよし！

③でも「課題」が見えてきません・・・というあなたは、「理想はこうだけど現実・・・」で考えてみよう！

【理想と現実の例】

理想

すべての子どもが貧困に苦しむことなく、生き生きと生活している。



どうすれば理想に近づくことができるか？がポイントだよ！

現実

日本では相対的貧困の現状があり、学力や雇用形態に悪影響を与えている。

【「問い」を立てるプロセスの例】

問題 地球温暖化がすすんで、いろいろな悪影響が出ている。

→何を解決すべきかと自分で調べ考える。

地球温暖化は食い止められる？

海面上昇に対しての対策？

海の酸性化も進んでいるらしい。

↓ よしこれにしよう。

課題 地球温暖化の元になる温室効果ガスが増加している。

→さらに調べながら、課題の焦点を絞る。

温室効果ガスも種類があるけど？

現在取り組まれている対策は国ごとでちがう？

対策は企業単位？個人単位？

↓ よしこれにしよう。

問い 弘前市内に住む人々が、日常生活の中で、温室効果ガスを今より減らす効果的な取り組みを行うことはできないか？

特集3 2・3学年「私の探究活動」発表会より

5月11日(木)に2年生が、5月18日(木)に3年生が探究活動発表会を行いました。今年度は3年生から6名の生徒が代表して、1年生に向けてステージ発表も行いました。ここで代表となった3年生の発表を紹介します。どんな「問い」を立てたのでしょうか？是非参考にしてみてくださいね！

35HR 大川 真菜 さん 「土手町の地域資源を活用し、若者がまちづくりをする効果」

課題

土手町の衰退が進み、歩行者や経営店舗も減っている。

問い

土手町に若者を中心とした人が訪れるようにするにはどうすればよいか。

仮説

若者がまちづくりとして土手町の魅力を伝えることが有効ではないか。

検証

高校生、大学生にアンケートした結果、若者は土手町に行きたいと考えているが、行けるような場所がないと思っている事が分かった。土手町は学校帰りに寄る事ができる場所であるため、歩いて発見できる土手町の魅力を紹介する冊子を作成した。行ってみたいとなると好評であった。

展望

冊子の活用方法を具体的に決めていきたい。